

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

本校では、「自主 協調 勤勉 努力」の校訓に基づき、教育活動を行っている。

特色としては、学習規律を保ち、自他を尊重する態度を身に付け、生徒一人一人が主体性をもち、自立を目指した集団育成に力を入れて教育活動に取り組んでいる。そして、その効果が徐々にあらわれている。

現状としては、生徒の学習態度は概ね良好であるが、家庭における学習習慣が十分定着しておらず、学習の定着度に二極化傾向が見られる。学校行事や部活動には意欲的に取り組むが、地域行事やボランティア活動への参加が少ない。教職員はベテラン教師と若手教員の年齢構成において二極化が見られ、組織的な授業改善を推進する校内体制の構築が、やや不十分である。保護者・地域は学校運営や教育活動に協力的であり、学校行事の見学や保護者説明会等の参加状況は漸次増加している。

課題としては、わかる授業や個に応じたきめ細やかな指導に努めるとともに、読解力の向上と探求心を持たせるために、体験的で問題解決的な学習の充実を図り、学習意欲を向上させることである。また、自己肯定感を高める道徳教育や人権教育の推進、夢や目標を持って励ませる進路指導の充実、生徒に寄り添いつつ集団を育成する生活指導の充実を偏ることなく組み合わせることにより、いじめの未然防止や不登校の早期発見につなげることである。さらに、一人一人を大切に特別支援教育の充実と工夫、健康・体力・運動への関心を高める指導や食育の推進、小中一貫した教育の充実と地域に開かれた学校づくりの推進等に取り組むことである。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【R5:94.5% R6:98.2% R7:98.7%】

○平成4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R4:100% R5:100% R6:100%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

【R5:90.7% R6:91.1% R7:93.6%】

○令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は積極的に保護者や地域に情報発信を行っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。【R5:94.5% R6:91.3% R7:84.9%】

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の7割に満たない生徒の割合を令和4年度より3%向上させる。

【R4:国語 17.6%、数学 32.2%、理科 33.1%】

【R6:国語 14.7% 数学 27.5%】

○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、令和4年度より向上させる。

【R4:3年 1.04】 【R6:3年 1.00】 【R7:3年 0.94】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を令和4年度より向上させる。

【R4:48.6% R6:50.6% R7:54.3%（校内調査）】

○令和7年度における授業アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。【R5:75.6% R6:83.8% R7:88.8%】

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、令和4年度より3ポイント向上させる。【R4:41.78pt R6:46.24pt】

○生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、令和7年度調査において5%以下にする。【R5:7.6% R6:8.6% R7:8.6%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R5:89.1% R6:90.2% R7:92.3%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。

【R5:74.3% R6:77.7% R7:78.9%】

#### 【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く）。

【R5:0% R6:0.7% R7:4.8%(10月現在)】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。【R5:57.9% R6:56.7% R7:58.1%】

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

#### 【安全・安心の教育の推進】

○令和7年度末の校内調査において、「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を86%以上にする。

【R6:84.8% R7:88.5%】

○令和7年度末の校内調査において、不登校在籍比率を前年度より減少させる。

【R6:8.3%】

○令和7年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合(改善生徒/継続不登校生)を増加させる。【R6:0.25】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を99%以上にする

【R6:98.2% R7:98.7%】

○令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R6:100%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を92%以上にする。

【R6:91.1% R7:93.6%】

○令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は積極的に保護者や地域に情報発信を行っている」と答える保護者の割合を92%以上にする。【R6:91.3% R7:84.9%】

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。【R6:33.7% R7:38.3%】

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的の比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。

現3年生	1年時 (R5)	2年時 (R6)	3年時 (R7)	現2年生	1年時 (R6)
国語	0.97	1.01	0.97	国語	1.05
数学	0.99	0.88	0.96	数学	1.07

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル総統以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を59%以上にする。【R6:52.9%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「すき」と回答する生徒の割合を55%以上にする。  
【R6:51.6%】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における正答率を府平均よりも向上させる。  
【R6:国語0.98 数学0.93】 【R7:国語0.98 数学0.85】

○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、令和6年度より向上させる。

3年	国語	社会	数学	理科	英語
R6	1.01	1.03	0.98	1.02	0.96
R7	0.97	0.93	0.96	0.87	0.94

○令和7年度末の生徒アンケートで「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を昨年度より向上させる。  
【R6:50.6% R7:54.3%】

○令和7年度末における授業アンケートで「授業がわかりやすい」の項目について、肯定的回答の生徒の割合を全体の85%以上にする。【R6:83.8% R7:88.8%】

○令和7年度末の生徒アンケートで「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を5%以下にする。【R6:8.6% R7:8.6%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を91%以上にする。【R6:90.2% R7:92.3%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。  
【R6:77.7% R7:78.9%】

### **【学びを支える教育環境の充実】**

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を47%以上にする。【R6:46.2% R7:41.5% (10月現在)】
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を73%以上にする。【R6:72.1%】
- 令和7年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く）。  
【R6:0.7% R7:4.8%(10月現在)】
- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。【R6:56.7% R7:58.1%】

3 本年度の自己評価結果の総括（最終評価）

## 大阪市立茨田北中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p><b>【安全・安心の教育の推進】</b></p> <p>○令和7年度末の校内調査において、「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を86%以上にする。 【R6:84.8% R7:88.5%】</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、不登校在籍比率を前年度より減少させる。 【R6:8.3%】</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合(改善生徒/継続不登校生)を増加させる。【R6:0.25】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を99%以上にする 【R6:98.2% R7:98.7%】</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R6:100%】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を92%以上にする。 【R6:91.1% R7:93.6%】</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は積極的に保護者や地域に情報発信を行っている」と答える保護者の割合を92%以上にする。【R6:91.3% R7:84.9%】</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 学習規律を維持するため、「時を守り 場を清め 礼を正す」ことに留意して集団育成し、挨拶運動や清掃活動、遅刻防止のためのチャイム着席等の取組を生徒会・委員会活動の一環として取組む。</p> <hr/> <p>指標 年間をとおして学習規律を維持する取組を行い、生徒アンケート等により検証する。 令和7年度末の生徒アンケートにおける「チャイムが鳴ったら、すぐに授業が受けられるように準備している。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を84%以上にする。【R6:83.6% R7:85.6%】</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめを未然に防止し、不登校への早期対応を図るための取組を行う。</p> <hr/> <p>指標 毎学期1回以上いじめアンケートを実施と、日常的な生徒観察で状況把握および指導に当たる。また、いじめ対策委員会・虐待防止委員会を毎月開催する。必要に応じてケース</p>	B

<p>会議を招集する。年間2回の教育相談により生徒に寄り添うとともに、不登校についての校内研修会を行う。学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R6:100%】</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】          自尊感情を高め、規範意識を醸成するため、道徳教育や人権教育、国際理解教育等の取組を進める。加えて一人一人を大切にす特別支援教育の充実と工夫を図る。</p> <p>指標          各学級とも年間35時間の道徳の授業を実施する。また、道徳の授業力を向上させる研究授業を実施する。各学年とも発達段階に応じた性教育を実施する。          令和6年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っている。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を99%以上にする。          【R6:98.2% R7:98.7%】</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】          自らの将来について考えさせるとともに、正しい職業観を養わせ、夢や希望をもって生きることができるようキャリア教育の充実に努める。</p> <p>指標          1年生で職業講話、2年生で職場体験またはそれに代わる体験活動、3年生で高校体験授業という系統立てた取組を実施する。          令和6年度末の生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っている。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を68%以上にする。          【R6:66.9% R7:70.6%】</p>	
<p>年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析</p>	
<p>「時を守り 場を清め 礼を正す」ことに留意し、学習規律を高め、自立を目指した集団作りを進めている。それにより、全体的に学習規律を維持することができ、規範意識については高い水準を保つことができている。</p> <p>いじめについては、これまでに数件発生している。その都度指導し、保護者への啓発も繰り返しているが、安易な発言や書き込みが原因のほとんどであり、継続しながら全体指導を進めていく必要がある。また、SNSへの書き込み等も増加傾向にある。これらを含め、早期発見・早期対応を行うため、定期的な「いじめアンケート」実施だけでなく、ケータイ・スマホ安全教室・非行防止教室を実施による安全への知識や人権意識の向上、「心の天気」「相談機能」を積極的な活用、相談しやすい環境づくりなど、安全・安心を推進する必要がある。</p> <p>不登校については、2学期に入ってから増加傾向にある。生徒本人と保護者に寄り添う気持ちを高めながら、個々に応じた対応を進め、集団生活や学校生活に楽しさや幸せがあることをアピールしていく。また、支援教室や子供サポートネットなどの関係諸機関と連携しながら、引き続き対応を進めていく。</p> <p>道徳・人権教育の授業については、概ね年間計画どおり進んでいるが、2学期は行事や取り組みも多く、道徳の時間を確保できるよう工夫が必要である。授業内容については、委員会で話し合ったことをもとに、各学年の取り組みの長所を細やかに共有し、考察していく。また、引き続き研修会等の周知に努め、他校の実践を学ぶ機会を設けていく。</p> <p>1学年では企業のキャリア教育プログラムを授業へ導入し働くことへの理解を深め、次年度に実施する職場体験学習に向けての意欲啓発を図っている。2学年では11月に職場体験学習を実施予定。事前に生徒各自が職業調べを行い、事業所に自ら電話でアポイントをとるなど主体性を重視した取り組みと</p>	

なっている。3 学年では私立高等学校の出前授業を 1 学期に行い、学んだことを壁新聞にまとめ文化発表会で展示した。また 1 1 月予定の面接講座を通じ、進路選択に向けてより生徒たちの意識を高めていきたい。関係諸機関または高等学校等と連携を取りながら、各学年とも自分の進路や職業観を育むための取り組みを進めることができている。

次年度への改善点

大阪市立茨田北中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標						進捗状況																																				
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○令和 7 年度末の生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。【R6:33.7% R7:38.3%】</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的の比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>現 3 年生</th> <th>1 年時 (R5)</th> <th>2 年時 (R6)</th> <th>3 年時 (R7)</th> <th>現 2 年生</th> <th>1 年時 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>0.97</td> <td>1.01</td> <td>0.97</td> <td>国語</td> <td>1.05</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>0.99</td> <td>0.88</td> <td>0.96</td> <td>数学</td> <td>1.07</td> </tr> </tbody> </table> <p>○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル総統以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 59%以上にする。【R6:52.9%】</p> <p>○令和 7 年度末の生徒アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。【R6:51.6%】</p> <p>○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査における正答率を府平均よりも向上させる。 【R6:国語 0.98 数学 0.93】【R7: 国語 0.98 数学 0.85】</p> <p>○令和 7 年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、令和 6 年度より向上させる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>3 年</th> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>英語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td> <td>1.01</td> <td>1.03</td> <td>0.98</td> <td>1.02</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>0.97</td> <td>0.93</td> <td>0.96</td> <td>0.87</td> <td>0.94</td> </tr> </tbody> </table> <p>○令和 7 年度末の生徒アンケートで「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を昨年度より向上させる。 【R6:50.6% R7:54.3%】</p> <p>○令和 7 年度末における授業アンケートで「授業がわかりやすい」の項目について、肯定的回</p>						現 3 年生	1 年時 (R5)	2 年時 (R6)	3 年時 (R7)	現 2 年生	1 年時 (R6)	国語	0.97	1.01	0.97	国語	1.05	数学	0.99	0.88	0.96	数学	1.07	3 年	国語	社会	数学	理科	英語	R6	1.01	1.03	0.98	1.02	0.96	R7	0.97	0.93	0.96	0.87	0.94	B
現 3 年生	1 年時 (R5)	2 年時 (R6)	3 年時 (R7)	現 2 年生	1 年時 (R6)																																					
国語	0.97	1.01	0.97	国語	1.05																																					
数学	0.99	0.88	0.96	数学	1.07																																					
3 年	国語	社会	数学	理科	英語																																					
R6	1.01	1.03	0.98	1.02	0.96																																					
R7	0.97	0.93	0.96	0.87	0.94																																					

<p>答の生徒の割合を全体の85%以上にする。【R6:83.8% R7:88.8%】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートで「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を5%以下にする。【R6:8.6% R7:8.6%】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を91%以上にする。【R6:90.2% R7:92.3%】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。【R6:77.7% R7:78.9%】</p>	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>わかりやすい授業、個に応じたきめ細かな指導の充実に努める。また、体験的、問題解決的な学習を取り入れ、生徒の学習に対する意欲や関心を引き出し、自主的・意欲的に取組もうとする態度を育てる。</p> <p>指標</p> <p>主体的・対話的で深い学びやICTの効果的な活用等を取り入れた授業を推進する。全教員による研究授業と相互授業参観、公開授業と研究協議会等を実施し組織的な授業改善を推進する。</p> <p>令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすく楽しくて、満足している。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。【R6:83.8% R7:88.8%】</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>本校生徒の課題である家庭学習習慣を定着させるための取組を推進する。</p> <p>指標</p> <p>各教科の授業で復習を主とした家庭学習のための課題を与える。また、学校元気アップ支援員と連携し、生徒が自由に活用できる自主学習プリントを作成する。</p> <p>令和7年度末の生徒アンケートにおける「1日平均1～2時間、家で勉強している。」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。【R6:32.7% R7:43.8%】</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>自らの健康に関心を持ち、体力の向上に対する意欲を育てるための取組について、食育を含めて推進する。</p> <p>指標</p> <p>保健体育指導や部活動の充実、生徒による保健委員会を活性化させ、その活動を中心とした生徒の意識の向上を図る。</p> <p>令和7年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を91%以上にする。【R6:90.2% R7:92.3%】</p> <p>令和7年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。【R6:77.7% R7:78.9%】</p>	B
年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析	

全国学力・学習状況調査の結果では、平均正答率は全国平均より3～8p t 下回った。令和7年度の中学校チャレンジテスト（3年）において、府平均と比較すると全教科下回った。

I C T機器活用の授業展開は増加している。しかし、居眠ってしまう生徒も見られ、指導者の注意喚起が必要である。また、一斉授業スタイルからペア学習や班学習スタイルの取入れ、主体的で対話的な深い学びの実践がまだ進んでいない部分もある。

家庭学習においては、宿題や復習ができていない生徒も多いが、宿題未提出生徒も少なくなく、本人及び家庭への啓発が必要である。学習用端末の家庭への持ち帰りをさらに進め、学習アプリを積極的に活用することで、家庭学習の充実を図っていく。

生徒アンケートにおいて、「学校の授業はわかりやすく楽しくて、満足している。」の項目について、肯定的回答の割合が増加傾向にあるので、学習内容の定着を図る取り組みを充実させる。

健康に関心を持つ生徒は増加し、給食前の手洗いうがいは徹底されている。

部活動については、おおむね積極的に参加し、その結果、夏・秋の大会・コンクールで好成績を収めている。

次年度への改善点

大阪市立茨田北中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を47%以上にする。【R6:46.2% R7:41.5% (10月現在)】</li> <li>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を73%以上にする。【R6:72.1%】</li> <li>○令和7年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く）。【R6:0.7% R7:4.8%(10月現在)】</li> <li>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。【R6:56.7% R7:58.1%】</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】 ICT機器を日常的に活用することで授業を主に、学びを支える教育活動を充実させる。</p> <p>指標 令和7年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く）。</p>	B

【R6:0.7%】	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の授業力を向上させるため、研究授業、相互参観、研修を充実させる。	
指標 令和7年度末の教職員アンケートにおける「研究授業、相互参観、研修を積極的に行っている」の項目について、肯定的に答える割合を50%以上にする。【R5:40%】	B
取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域との連携・教働した教育の推進】 学校元気アップ地域本部事業による学習支援や図書館運営等の取り組みを充実させるとともに、学校の情報を積極的に発信し、地域や保護者の理解を得られるように努め、密接な協力関係を構築する。	
指標 毎月、「元気アップ便り」を発行し、毎日、学校ホームページを更新する。また、学年便り、学校だより、保健室便りを定期的に発行する。 令和7年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きである」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R6:56.7%】	B
年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析	
<p>授業での学習者用端末の利用は、その活用の研修やICT支援員のサポートもあり、増加している。年間一度以上の研究授業は、それぞれの教員の創意工夫で内容の濃いものが見られ、一斉外の授業スタイルも見られる。10月中旬には、若手教員主催による研究授業を実施した。11月中旬に2回目を実施予定。授業が空いている場合は、多くの教員に短時間でも参観してもらいたい。</p> <p>「心の天気」活用については、昨年度に比べると向上しているが、50%を下回るが多く、まだまだ活用率は低い。命・いじめなど生徒の状況把握に不可欠であり、重要なアンテナツールとなるため、引き続き、積極的な活用を進めていく。</p> <p>図書室の活用は、支援スタッフの皆様のおかげで、頻繁に利用する生徒もいる。貸出冊数などまだまだ利用価値は高いので、スタッフ任せにせず生徒たちへ啓発していく必要がある。また、不登校生徒の居場所づくりの一助にもなっている。</p> <p>地域の皆様には「元気アップだより」の発行や、サポートスタッフとして様々な分野で支援していただいている。引き続き、積極的にコミュニケーションを図りながら、チームの仲間意識を育てたい。</p>	
次年度への改善点	

## 項目評価シート

### (1) 国語

取組内容（指標）	達成状況	
① 基本的な読み書きの力を養成する。	B	B
② 伝統的な文学に意欲を持って取り組めるように工夫する。	A	
③ デジタル教材を活用し、主体的・対話的な学びの実現に努める。	B	
④ 豊かな表現力を育成するために、読書・作文の指導を充実させる。	B	
結果と分析		
<p>① 各学年で漢字テストを定期的実施している。チームティーチングで国語が苦手な生徒に声掛けをしている。</p> <p>② 国語便覧や動画を活用し興味を持たせるようにしている。</p> <p>③ ICT機器を使用しレポートの提出をさせたり調べ学習をさせたりしている。</p> <p>④ 各単元ごとに感想文や意見文を書かせている。</p>		
年度末への改善点		
<p>① 漢字テストに取り組みきれてない生徒を指導し努力すれば結果につながるということを実感させる。</p> <p>② 興味を持って自分から読書に取り組んだり、文学の背景を調べたりできるように指導していく。</p> <p>③ さらに学習用端末での取り組みを進めていきたい。</p> <p>④ 感想文や意見文を発表させ相互で他人の意見から学ぶ機会を増やしていきたい。</p>		

### (2) 社会

取組内容（指標）	達成状況	
① 教材研究や生徒との十分なコミュニケーションに努め、生徒が興味を持ち、生徒自身の「関心・意欲」を高めるような授業を展開する。	B	B
② 資料（史料）の内容を読み取らせ、自分の考えを文章にまとめる機会を設けることで、技能や思考・判断・表現力をつけさせる	B	
③ 問題集の活用や小テスト、長期休暇時の学習会などを開き知識を定着させる。 (指針：テスト前や長期休暇で学習会を各学年で年3回程度実施する。)	—	
④ ICT機器を効果的に活用し、授業内容の定着を目指す。 (指針：学期ごとに5回以上、学習者用端末を使用する。)	B	
結果と分析		
<p>① 生徒一人ひとりが興味を持てるような授業の導入・展開を行っている。</p> <p>② 教科書の内容や授業の資料を使い読み取れたことをまとめる時間や課題を作ることができている。</p> <p>③ 入試に向けての学習会やテスト前の学習会を今後実施していく予定である。</p> <p>④ 学習者用端末を活用し授業を行うことができている。</p>		
年度末への改善点		

- ① 生徒が興味・関心を持つことができるような教材づくりを継続して行っていく。時事問題も取り上げ、社会の様子を知ることができるようにしていく。
- ② 学習者用端末を効果的に使いながら、自分の意見をまとめる機会を作っていく。
- ③ 学習会については教員の負担が少なくなるように設定し行っていく予定である。
- ④ 端末も更新され、これまでよりも生徒が進んで端末を活用しやすい環境になっているため、学校の見本となるように継続して端末を使うことができる教材づくりを行っていく。

### (3) 数学

取組内容（指標）		達成状況	
①	数式分野の理解を深めるために、反復練習を行い、基礎学力の定着に努める。	B	B
②	少人数授業やチームティーチングを実施し、個に応じた学力の伸長に努める。	B	
③	生徒が主体的に学習に取り組める教材を作成し、班活動等を通じて対話的な活動を通じて学力向上に努める。	B	
<b>結果と分析</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業では、前回の復習を兼ねて確認テストや計算分野での小テストを行った。また家庭学習ではドリルやワークを用いて反復練習を行った。年度末に向けて引き続き確認を行い、より一層の基礎学力の定着に努めていく。</li> <li>② チームティーチングを中心に数学が苦手な生徒の声掛けを行っている。</li> <li>③ プリントやICT教材を用いて、生徒が自主的に問題に取り組むことができるように努めている。また数学が得意な生徒が苦手な生徒に教え合いができる環境をつくっている。</li> </ul>			
<b>年度末への改善点</b>			
<p>学年が変わる前に1年間の既習事項を確認し、次年度への準備を進めていく。</p>			

#### (4) 理科

取組内容（指標）		達成状況	
①	基礎の定着をはかり、応用問題にも対応できるよう読解力を高める。	B	B
②	実験・観察学習などの体験的な学習を通して、探求心を高め科学的な思考を養う。	B	
③	視聴覚機器を活用した授業を行うことを創意工夫する。	B	
結果と分析			
① 小テストや問題演習を通して、基礎の定着に努めた。また、グラフの読み取りや文章問題を取り入れ応用問題に対応できるよう授業に取り組んでいる。			
② 単元ごとに一定数の実験を行い、知識と結び付け、科学的な思考を養うことができた。各学年の使用状況や季節等で実施が遅れることもあった。			
③ ICT 機器での、事象の確認や校内の実験では確認できないことを視覚的に確認させた授業を展開させた。			
年度末への改善点			
グラフの作成や発表を通して、生徒による ICT 機器の活用にも創意工夫をして授業に取り入れていきたいと考える。また、小テストや定期テストから理解の定着を分析し、基礎課題や応用課題の対応の向上につなげていく。			

(5) 音楽

取組内容（指標）		達成状況	
①	プリントなどを使用して学習内容の要点を明確にし、基礎学力の定着を図る。	B	B
②	歌唱や器楽の表現や技術の向上を図る。	B	
③	ICT 機器を活用し「音の視覚化」で授業を展開し、生徒の興味関心への工夫を凝らす。また、ICT 機器の活用を行い、主体的・対話的な学びの実現に努める。	B	
結果と分析			
① 楽典の分野では授業の最初に復習を行い、1年生は三回目で小テストを行っているが、平均が50点程度であり、もう少し復習が必要と考える。2、3年生に関しては基礎的な分野は75%程とれている。			
② 文化発表会での2年生の合唱では強弱だけではなく、言葉の意味や発音なども考え、話し合い歌唱につなげた。表現力の向上になったと考える。			
③ デジタル教科書を主に用いて授業展開をするほか、生徒の発言を打ち込み、共有しやすくしている。また、端末を活用して調べ学習を2、3年生では2回程度行っている。1年生はこれから実施予定。			
年度末への改善点			
① 特に1年生は楽典の分野に時間をかけ、小テストの回数を増やす。またプリントの内容や活用方法の再検討を行う。			
② 1年生はまだ混声三部合唱を行っていないので、取り入れていく。			

(6) 美術

取組内容 (指標)		達成状況	
①	教科書・資料集の他に、ワークプリントなどを使い学習内容の要点を明確にし、生徒が主体的に学習する姿勢を養い、技術の向上を図る。対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	B	B
②	生徒が互いの作品の鑑賞活動を通して、相互に作用して対話的な学びから自己の考えや表現を深めさせる。造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	B	
③	ICT機器を活用し、視覚化を通して思考を高め、より深い学びにつなげる。	B	
結果と分析			
<p>① 各単元で教科書や資料集を活用し作品制作に活かせるように内容を取り入れている。デジタル教科書を使用し、学習の目的やポイントをより明確に伝えることができた。</p> <p>② 文化発表会の展示では全学年の作品を互いに鑑賞することができた。</p> <p>③ 細かい技術は事前に動画にまとめて視覚的に理解できるようにしている。必ず指導者が実践して生徒に見えるように手元を映し出し、細かい作業は繰り返し行っている。</p>			
年度末への改善点			
<p>余裕のある鑑賞時間を確保して作品に親しむ時間を取り、より深い学びにつなげたい。</p> <p>一人一台端末を使用し、生徒の発想や鑑賞活動に活かしていきたい。</p> <p>生徒同士が互いの作品を鑑賞できる環境を設定したい。</p>			

(7) 保健体育

取組内容 (指標)		達成状況	
①	<p>【集団行動の充実】 集団行動やグループ活動を充実させ、規律ある態度と自ら学ぶ姿勢を育てる。</p> <p>(指標) 全国体力調査の中で保健体育の授業に進んで参加しているか。という質問に対して男女合わせて、「いつも進んで参加している」「大体進んで参加している」と答える生徒の割合を80%以上にする。</p>	B	B
②	<p>【健康・体力の保持増進】 運動の合理的な実践により、基礎体力の向上を図ると共に自発的に運動に親しむ習慣を育てる。</p> <p>(指標) 新体力テストの結果で昨年度の自己記録を超える生徒の割合を80%以上にする。</p>	B	
③	<p>【言語力や論理的思考能力の育成】 自分の課題に対して、班活動などを取り入れて、仲間同士で教えあいや学びあいの機会を作る。さらに、健康・安全に関する理解を通して思考力・判断力を育てる。</p> <p>(指標) ICT や教科書などを活用し、実際に自分の理解を深めさせアドバイスを増やす。試験ごとにワークやプリントをチェックし確認する。</p>	A	

結果と分析
① 集団行動やその他の単元でも積極的に班活動やペア活動を行い生徒たちの共同的な学びにつなげる取り組みをしている。さらに体育委員を中心に規律ある授業を行うことができている。 ② 生徒の基礎体力の向上を目指して、毎授業トレーニングを行い、昨年度の記録を更新できるように取り組んできた。結果は3学期に分析する。 ③ 体育分野・保健分野共に運動能力が二極化する中、「わかって」「できる」ことに繋げるために、ICTの活用や実技の本を活用したり、プリントを使ったりすることで視覚的に理解する授業を展開することも取り入れて行うことができた。
年度末への改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員を中心に授業を展開する中で、少しでも個人の基礎体力が向上できるように準備運動の種類を改善したり、柔軟性を高めるためにストレッチの時間などを取り入れるように改善していく。</li> <li>・タブレットの端末が使いやすくなってことを受けて、より自分の運動分析に活用していくようにしたい。</li> </ul>

### (8) 技術・家庭

取組内容（指標）	達成状況	
① グループワークや制作学習で他者と協働し、対話的な学びを深め、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる。	A	B
② 現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から課題を見出しその解決のために、学習を振り返り、評価・改善をして、新たな課題に主体的に取り組む姿勢を育てる。	B	
③ 学習内容の理解度を深めるために ICT の有効活用を図る。	A	
結果と分析		
① 全学年ともグループでの活動を通して協力して基本的な技術を使い、実習に意欲的に取り組むことができている。 ② 自分の今を振り返ることはできるが、将来につなげるというところまで発想が及ばない。 ③ ICT を活用した授業展開を昨年度に引き続き、行っている。		
年度末への改善点		
引き続き ICT の活用や生徒用端末の活用を続けていながら、授業の学習内容を踏まえて自身の未来の生活と関連付けて考えたり、生かそうとする姿勢をもつことのできる授業を展開していく。		

(9) 英語

取組内容（指標）		達成状況	
①	5技能を使用する言語活動を通じて、コミュニケーションを図る資質・能力を育成させるよう努める。	B	B
②	デジタル教材や C-Net を効果的に活用し、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う	B	
結果と分析			
① ペアやグループでコミュニケーションを図るための活動を行った。積極的に活動する姿が見られるようになっている。			
② 毎時間デジタル教材を使用し、また C-NET と月に1度の割合で活動を行い、スピーキングテストやライティング等の指導を行った。また一人一台端末を使用し、プレゼンテーションをする準備ができています。			
年度末への改善点			
①デジタル教科書を活用し、さらに積極的に活動できるよう教材を工夫する。			
②一人一台端末を活用し、さらにコミュニケーションを図る力を付けさせる。			

(10) 道徳

<b>目 標：</b> 正しい人権意識を身につけ、違いを認め合い、道徳性や思いやりの心を育てることに努める。
--

取組内容（指標）		達成状況	
①	内容項目を確認しながら、各学年で読み物資料を使用した授業を行い、授業を通じて豊かな心を育てる。	B	B
②	学年間で協議しながら、授業内容の充実に向けて取り組む。	B	
③	学級での集団作りや学年行事、学校行事の取り組みを通じて、人権尊重の精神を養う。	B	
結果と分析			
① 道徳の時間の確保に努め、各学年の実状に合わせて、ローテーション制、担任・副担任交代制を組んで教科書を使用した授業を行っている。			
② 委員会を開き、各学年の進捗状況や授業内容について共有し、話し合うことができた。			
③ 学級での仲間づくりや学校行事、学年行事の取り組みを通して、思いやりの心を育てることに努めている。			
年度末への改善点			

授業については、各学年の協力もあって概ね年間計画どおり進んでいるが、2学期は行事や取り組みも多く、道徳の時間を確保できるよう工夫が必要である。

授業内容については、委員会で話し合ったことをもとに、各学年の取り組みの長所を細やかに共有し、考察していきたい。

また、引き続き研修会等の周知に努め、他校の実践を学ぶ機会を設けていきたい。

## (11) 特別活動

**目 標：** 自律的生活態度を育成し、互いに尊重し合う集団づくりに努める。

取組内容（指標）		達成状況	
①	生徒会・専門委員会活動の活性化を図り、積極的に参加させる。	B	B
②	学校行事・学年行事の活性化を図り、積極的に参加させる。	B	
③	部活動の活性化を図り、積極的に参加させる。	A	
結果と分析			
①	生徒が主体的に学校活動へ自主的に取り組めつつある。生徒会では、スマホ使用の問題に対して校内アンケートを実施し、使い方の見直しとルール作りに向けて取り組んだ。		
②	体育大会、文化発表会などを中心に、学校行事・学年行事ともに生徒や教職員がそれぞれの役割を果たして成功につなげることができた。		
③	全校生徒の入部率が84%であり、昨年よりも増加している。活動にも盛んに取り組むことができおり、実績をあげる部活動も多くある。		
年度末への改善点			
①	生徒は決められたことはできるようになりつつあるが、気づきからの自発的な行動へはつながっていないところがある。それぞれの活動において主体的に取り組む姿勢を育てる。		
②	各行事ごとにアンケートなどを実施し、課題を改善しながら、より良い行事になるよう取り組む。		
③	各顧問の先生の熱意ある指導のもと、一定活性化を図ることができている。この状態を維持することができるよう取り組む。		

## (12) 進路指導

目標： 自己理解を深めさせるとともに、探求心を持って主体的に進路選択ができるための能力・態度を育てるよう3年間を見通した指導に努める。

取組内容（指標）		達成状況	
①	発達段階に応じ、各学年に適した進路指導計画を立て、系統的・継続的に進路学習を実施する。	B	B
②	社会の一員としての在り方や職業観・勤労観を育成するために、地域社会や関係諸機関との連携を密にしたキャリア学習を系統的に行う。	B	
③	進路についての目的意識を高めるために、学校説明会や体験学習への参加の推進、進路説明会等による進路情報の提供、進路資料を活用した学級活動や進路相談を行う。	B	
結果と分析			
①	1 学年では企業のキャリア教育プログラムを授業へ導入し働くことへの理解を深め、次年度に実施する職場体験学習に向けての意欲啓発を図っている。2 学年では11月に職場体験学習を実施予定。事前に生徒各自が職業調べを行い、事業所に自ら電話でアポイントをとるなど主体性を重視した取り組みとなっている。3 学年では私立高等学校の出前授業を1学期に行い、学んだことを壁新聞にまとめ文化発表会で展示した。また11月予定の面接講座を通じ、進路選択に向けてより生徒たちの意識を高めていきたい。		
②	関係諸機関または高等学校等と連携を取りながら、各学年とも自分の進路や職業観を育むための取り組みを進めることができている。		
③	卒業後の進路実現に向けて「進路の手引き」等の冊子を活用した進路説明会を年2回、また進路通信の発行など進路選択のための正しい情報提供を行っている。これらにより、学校説明会や体験学習への参加の促進に繋がっていると考える。		
年度末への改善点			
①	引き続き、卒業後の進路に繋がる学習を継続し、生徒が多様な学びや職業に触れられる機会を深めていくことで将来の選択肢を広げられるようにしたい。		
②	各学年の取り組み内容を共有し、次年度以降の3年間を見通した進路学習への礎としたい。		

### (13) 生活指導の重点

目 標: 基本的な生活習慣の定着を図り、集団の規律を学ばせ、正しい判断のできる生徒の育成に努める。

取組内容（指標）		達成状況	
①	【規範意識の育成】 集団生活のルールを守れる生徒を育成する。 時間を守れる生徒を育成する。	B	B
②	【基本的生活習慣の確立】 挨拶のできる生徒を育成する。 正しい言葉使いのできる生徒を育成する。	B	
③	【家庭・地域との連携】 教育相談を充実させて、保護者との綿密な連携を行う。	A	
<b>結果と分析</b>			
<p>① 学校生活の習慣では一定定着している。SNS の問題について、ケータイ・スマホ安全教室・非行防止教室を実施し、生徒の人権意識を高めるとともに安全への知識を高め、いじめの予防にも務めた。生徒自身での実態把握・ルール作りにも取り組んでいる。いじめについては、毎月のいじめアンケートを実施することで、早期発見・早期対応に努め、解消率 100%を目指している。</p> <p>② 各委員会の活動において登校時でのあいさつ運動の実施、教育活動全般での指導などにおいて、生徒へ定着できるよう務めた。</p> <p>③ 年間 3 回の教育相談の実施など、生徒理解に努めている。不登校の対応について、校内の学習支援教室を活用や各諸機関と連携を図りながら改善に努めている。いずれも担任が中心となり保護者と連絡を密に取りながら、外部機関とも連携して生徒への支援をしている。</p>			
<b>年度末への改善点</b>			
<p>① 遅刻する生徒もほとんどおらず、時間を守る意識は高まってきているが、時間ぎりぎりに登校する生徒が固定化されているので改善できるよう個別に指導していく必要がある。規範意識においては、今後も継続した指導を行なっていく。「いじめ」「SNS」の課題について、今後も継続して生徒理解に努め、早期発見・早期対応ができるようにしていく。「心の天気」「相談申告機能」を活用する。</p> <p>② 学年や学級、部活動での指導の成果もあるが、形式的になっている生徒も多いため、継続して指導していく。</p> <p>③ 教育相談において、生徒と担任の信頼関係を一定保っていることから、様々な事案が発覚し、対応することができた。「不登校」の課題について、「見立て」「手立て」を検討し、保護者や外部機関とも連携して今後も改善につなげる。</p>			

#### 14) 保健管理・指導の重点

目 標： 食育や体力向上を通して健康的な生活習慣を身に着け、環境づくりと安全・美化に努める。

取組内容（指標）		達成状況	
①	【健康的な生活習慣Ⅰ】健康診断後の受診率を高める。（う歯・視力）	B	B
②	【健康的な生活習慣Ⅱ】保健便り等を通して体力向上や食に対する意識を高める。	B	
③	【現代的課題】生徒が主体的に校内美化に努め、環境問題について考えさせる。	B	
<b>結果と分析</b>			
① 保健便りや生徒保健委員活動を通じて、治療勧奨している。 ② 保健便りや掲示物・校内行事を通して、生徒の意識向上に努めている。 ③ 環境委員会を中心に中庭の花壇などの環境整備に努めている。また、環境に関するポスターを掲示することで校内の環境を意識することができている。校内菜園などに意欲的に参加するなど意識も向上している。			
<b>年度末への改善点</b>			
今後も、引き続き以上の活動を通して、受診率の向上や生徒の意識向上に努めていく。			

### (15) 教員の研修の重点

目 標： 教育活動への研究と修養に努める

取組内容（指標）		達成状況	
①	【授業研究】 教職員相互の授業研究・研修を促す。情報を共有し、指導力向上に役立てる。	B	B
②	【研修内容の確立】 新転任研修・新任研修・中堅研修・生徒情報交換・特別支援研修・校内共通確認事項の周知を基本とし、今後必要とする研修内容を調整する。	B	
③	【研修計画】 外部からの講師を依頼し研修の場を設けるよう日程調整する。 生活指導・学級経営・ICT 教育・特別支援教育・人権教育・平和教育等、 の修養となるよう努める。	B	
④	【小中連携】 小学校教員と情報を共有し、同地域の連携を密にする。	B	
結果と分析			
<p>① 2 学期より、相互授業参観を実施している。</p> <p>② 生徒情報交換は全職員共有できる体制にある。若手教員研修を実施し、教員同士の資質向上に向けて取り組んでいる。</p> <p>③ ICT 研修では、講師を依頼して「新規タブレット」の使用方法、Google classroom の操作を学んだ。</p> <p>④ 部活動体験を実施し、児童の様子や小学校教員との顔合わせができた。新入生受け入れに向けて、現在小学校との情報共有会の日程調整中。</p>			
年度末への改善点			
<p>・年度末まで、教員の資質向上と情報共有の場を継続して設けていく。</p>			

## (16) 特別支援教育の重点

目 標： 一人ひとりの実態を把握し、社会自立に向けた支援を個別に努める

取組内容（指標）	達成状況	
① “できた”を増やし、自己肯定感を高める	A	B
② 情緒の安定を図り、適切な自己表現ができる力を育成する	B	
③ 生徒一人ひとりの実態把握に努め、教職員全体で理解・共有する	B	
<b>結果と分析</b>		
① 個々の特性を活かし、1人でもできることが増えており、自立に繋げることができている。 ② 特別支援学級を安心できる居場所にすることができおり、情緒が不安定になった際に利用することができている。また、気持ちが落ち着かなくなった理由など自分の気持ちを伝えることができている。 ③ 生徒一人ひとりの実態把握に努め、学期に1回、教職員全体で情報共有を行っている。 職員間で生徒に対しての情報を話し合いすることができている。		
<b>年度末への改善点</b>		
① スモールステップは踏めており、一人でできることも増えている。 ② 特別支援学級では安心して過ごせているが、学級での過ごし方や人間関係などの課題はたくさんある。色んな場面を想定し、ソーシャルスキルトレーニングを続けていく。 ③ 生徒一人ひとりの支援目標や保護者・本人の願いを共有し、個々に合った支援を教職員全体で共有し、実践していきたい。		

### (17) 1年 努力目標

目 標： 自他を尊重し、何事にも意欲的に取り組む集団になる

取組内容（指標）		達成状況	
①	互いを思いやり、みんなが楽しく過ごせる学年作り	B	B
②	将来の目標のため、学力向上に励む学年作り	B	
③	行事、部活動に全力で取り組む学年作り	B	
結果と分析			
<p>① 一部ではあるが、他人の気持ちを考えず自分の気持ちだけを優先して行動する生徒がいる。集会や学活など、いろいろな場面で粘り強く指導する必要がある。</p> <p>② 小テスト、提出物などは意欲的に取り組む生徒が多い。取り組みきれない生徒が一部いるのが課題である。</p> <p>③ 学校での取り組みは素直に一生懸命取り組む生徒が多い。この姿勢を継続していきたい。一生懸命取り組むあまり時間を超過するなど、ルールを逸脱することがある。</p>			
年度末への改善点			
<p>① 学級活動や学年集会だけでなく、普段の授業や行事でもお互いを思いやる気持ちの大切さを説いていく。</p> <p>② 担任と教科担任が連携し粘り強く指導していく。</p> <p>③ 一生懸命やることは大切だが並行して決められたルールを守ることも大切だということを徹底していく。</p>			

### (18) 2年 努力目標

目 標： 一人一人の個性を尊重し、失敗を恐れず挑戦できる生徒の育成

取組内容（指標）		達成状況	
①	マナーやルールを守ろうとする生徒の育成。	B	A
②	自主的・積極的に取り組む生徒の育成。	A	
③	他者を思いやれる生徒の育成。	A	
結果と分析			
<p>学 年教員の見守りや指導の下、マナーやルールを守る規範意識が学年全体に広がっているように感じる。また、教員のサポートを受けながら、生徒主体でクラス劇・全体合唱など行事を実施。各クラスで生徒が自主的・積極的に成長しようとする姿が多くみられた。他にも、様々な場面で他者を思いやる行動、声掛けを目にすることが多く、59期生が成長していることを体感できる2学期となった。</p>			
年度末への改善点			
<p>中学校2年生という、気が緩む時期に多くの行事を同時並行で準備から実施までできたことは、子どもたちの成長につながると感じている。年度末にも多くの行事を計画しており、失敗と成功を体験し、それぞれが積み上げた経験をもとに、生徒たちが自信をもって3年生に進級できるように指導を継続していく。</p>			

(19) 3年 努力目標

目 標： 基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自主性を高め協力する心を育成する。

取組内容（指標）	達成状況	
① マナーやルールを守ろうとする生徒を育成する。	A	B
② 自ら学ぼうとする生徒を育成する。	B	
③ 他者を思いやる生徒を育てる。	B	
結果と分析		
① 大多数は決められたルールを遵守して学校生活を送ることができている。時間に余裕をもって行動できていない部分が課題。 ② 進路選択が迫り、積極的に取り組む姿勢が向上してきた。学力面（得点）での成果が向上していない部分が課題。 ③ 一部、相手の気持ちを考えて行動できていない生徒がいる。それにより、精神的苦痛を抱え、我慢している生徒がいる。苦痛を抱えている生徒を守り続け、全体への優しさのある行動の指導を継続していく。		
年度末への改善点		
① 学校生活のあらゆる場面で、ルールを遵守することの重要性を説いていく。 ② 各教科担任と学級担任が情報共有して、改善しなければならない生徒の課題を指導する。 ③ 学級活動、学年集会を通して、他者を思いやる気持ちを育む講和や指導を継続して行う。		